

人形浄瑠璃

文楽

平成26年度(第69回)文化庁芸術祭主催
国立文楽劇場開場三十周年記念

11月文楽公演

【第1部】午前11時開演

ふたつちようちようくるわにつき

双蝶々曲輪日記

堀江相撲場の段

大宝寺町米屋の段

難波裏喧嘩の段

橋本の段

八幡里引窓の段

【第2部】午後4時開演

おうしゅうあだらがはら

奥州安達原

朱雀塚の段

環の宮明御殿の段

道行千里の岩田帯

一つ家の段

谷底の段

平成26年
11月1日(土) - 24日(月・休)

※13日(木)は休演 ※演目の入れ替えはございません。字幕表示がございます

◆予約開始=10月3日(金) 午前10時~

【電話】国立劇場チケットセンター(午前10時~午後6時) 0570(07)9900 / 03(3230)3000 (一部IP電話等)

【インターネット】※一般のみ <http://ticket.ntj.jac.go.jp/> (パソコン)

<http://ticket.ntj.jac.go.jp/m/> (スマートフォン)

※この公演はインターネット予約の際、座席選択をご利用いただけます。

◆窓口販売開始=10月4日(土) チケット売場(午前10時~午後6時) ※窓口販売用は解替でのお取り置きはございません。

◆ご観劇料(税込) ※障害者の方は割引あり(1等一般のみ)

一般 [1等] 6,000円 [2等] 2,400円 / 学生 [1等] 4,200円 [2等] 2,400円



国立文楽劇場



〒542-0073 大阪市中央区日本橋1丁目12番10号
06(6212)2531℡ <http://www.ntj.jac.go.jp/>

【奥州安達原】
撮影=青木信二



第一部

午前11時開演(午後3時30分頃終演予定)

双蝶々曲輪日記

堀江相撲場の段 / 大宝寺町米屋の段 / 難波裏喧嘩の段 / 橋本の段 / 八幡里引窓の段

江戸時代、力士は芝居と人気を二分していた相撲の象徴で、快気に溢れた頼もしい存在と考えられていました。濡髪長五郎と放駒長吉、二人の力士の達引からはじまる、異なる身分や境遇、世代や性別を越えて、互いを思う心が対立から和解に至る世話物で、大坂と近郷を舞台に、秋の風物が物語の展開に大きくかわる名作です。



濡髪長五郎は放駒長吉に勝ちを譲ることで、長吉の最良の平岡郷左衛門に自分の最良山崎と五郎の想い人、吾妻から手を引かせようとした。姉のお関と長五郎の思いに心を動かされた長吉は、長五郎と義兄弟の誓いを交わします。その後、難波裏で平岡に辱められた長五郎は、平岡を手にかけてしまいます。

与五郎と吾妻は、橋本の与五郎の妻お照の実家にたどり着きます。お照の父治部右衛門は、与五郎がお照と別れることを条件に二人を匿います。そこへ与五郎の父与次兵衛がお照を迎えに来ます。争う二人を駕籠昇の甚兵衛が仲裁します。実は甚兵衛は吾妻の父だったのです。



長五郎は実母の再婚先、八幡の代官南方十次兵衛の家を訪ねます。十次兵衛の息子与兵衛は父の名を継ぎ、長五郎探索の夜の番を命じられましたが、母や妻のおはよの様子から深い事情を悟ります。母は長五郎に姿形を変えて逃げるように勧めましたが、かえって十次兵衛に手柄を立てさせるように説得されています。母は様子を窺っている十次兵衛に声をかけるのでした。

第二部

午後4時開演(午後8時50分頃終演予定)

奥州安達原

朱雀堤の段 / 環の宮明御殿の段 / 道行千里の岩田帯 / 一つ家の段 / 谷底の段

神器の紛失と皇弟の失踪事件の責任を問われる源義家と舅の平兼仗。事件の背後には、義家によって滅ぼされた奥州の豪族安倍貞任・宗任兄弟の影が見え隠れします。推理劇のような展開を見せる義家と安倍一族の駆け引きや、翻弄される女たちの情念が交錯する全五段の時代物から、三段目と四段目をご覧ください。



環の宮の守役の兼仗は窮地に陥り、兼仗と妻浜夕の次女敷妙の婚である義家は舅のために尽力しますが、

事態は進展しません。一方、兼仗の長女の袖萩は正体不明の浪人(実は貞任)と親の許さぬ恋に落ち、勘当されていました。夫と別れ、娘のお君を育てなければならなかった袖萩は、貧苦のうちに失明し、祭文の芸を披露して生活をしています。禁猟を犯した罪を名乗り出た外が浜の南兵衛(実は宗任)、宮の誘拐事件の究明を求め、勅使桂中納言(実は貞任)、お君を両親に会わせようとする袖萩が雪の御殿に姿を現し、物語は意外な方向に向かうのです。

義家の家臣志賀崎生駒之助は傾城の恋絹と駆け落ちし、恋絹の故郷奥州へ向かう途中、安達原で宿を乞います。女主の岩手は貞任・宗任兄弟の母で、誘拐した宮の病を治す薬にと妊娠中の恋絹を手にかかけます。岩手は恋絹が実の娘であること、宮に仕える匣の内侍は義家の弟新羅三郎義光、宮は義家の子八若で、神器捜索のため潜入していたことを知るのでした。



予約開始

10月3日(金) 午前10時~

〈電話〉国立劇場チケットセンター [午前10時~午後6時]

0570(07)9900

03(3230)3000 [一部IP電話等]

〈インターネット〉<http://ticket.ntj.jac.go.jp/> [パソコン]

※一般のみ <http://ticket.ntj.jac.go.jp/m> [スマートフォン]

※この公演はインターネット予約の際、座席選択をご利用いただけます。

窓口販売開始

10月4日(土) [チケット売場 午前10時~午後6時]

※窓口販売用は別枠でのお取り扱いをさせていただきます。

ご観劇料

[1等] 一般 6,000円・学生 4,200円

[2等] 一般・学生とも 2,400円

※障害者の方は2割引(1等一般のみ)。
車椅子用スペースがございます。ご予約時にお問い合わせください。

一般のみの取り扱い 10月3日(金)より

チケットぴあ 0570(02)9999 [Pコード 434-736]

ローソンチケット 0570(000)407 [Lコード 59003]

e+ (イープラス) [パソコン] <http://eplus.jp>

[携帯] <http://eplus.jp/ntj>

JR西日本(京阪神地区)の主な駅のみどりの窓口

※一般前売開始日は11時からの取り扱いになります。



国立文楽劇場 (大阪)

〒542-0073 大阪市中央区日本橋1丁目12番10号 06(6212)2531(代)

<http://www.ntj.jac.go.jp/>

地下鉄・近鉄(日本橋) 駅下車7号出口より徒歩約1分

※駐車場がございませんのでお車のご来場はご遠慮ください。